

27年6月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成27年6月1日～ 27年6月10日

2. 調査実施方法

全国の国産材製材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
6月分の回答企業数は15社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

ア. 国産材

(1) 製材用原木荷動き動向 Weight. D. I.

品目		27/6月	7月	8月
入荷動向	スギ	0.0	15.0	10.0
	ヒノキ	△ 25.0	△ 6.3	△ 6.3
	カラマツ	—	—	—
	トドマツ	50.0	0.0	0.0
消費動向	スギ	0.0	0.0	5.0
	ヒノキ	△ 37.5	△ 25.0	△ 25.0
	カラマツ	—	—	—
	トドマツ	0.0	0.0	50.0
在庫動向	スギ	21.9	18.8	18.8
	ヒノキ	△ 14.3	△ 7.1	△ 7.1
	カラマツ	—	—	—
	トドマツ	0.0	0.0	50.0

・スギ原木の入荷は6月の横ばいが、7月、8月は増加、ヒノキは3ヵ月連続して減少、トドマツは6月の増加が7月、8月は横ばい。

・スギ及びトドマツ原木の消費は6月、7月の横ばいが8月には増加、ヒノキは3ヵ月連続して減少。

・スギ原木の在庫は3ヵ月連続して増加、ヒノキは3ヵ月連続して減少、トドマツは6月、7月の横ばいが8月には増加。

(2) 製材原木価格動向 Weight. D. I.

品目	27/6月	7月	8月
スギ	△ 50.0	△ 30.0	△ 10.0
ヒノキ	△ 50.0	△ 37.5	△ 18.8
カラマツ	—	—	—
トドマツ	0.0	0.0	0.0

・スギ及びヒノキの原木価格は3ヵ月連続して弱含みで推移、トドマツは保合。

モニターからのコメント

' (原木荷動き)

- ・トドマツは、山に入れるようになり本格的な運材開始、長さの入荷バランスは良くない。生産順調。
- ・スギ、ヒノキは市場への出材量減。製材数量変えず、スギ注文材あり。在庫総量減少。
- ・製品荷動き非常に悪いため、原木出荷多少のことがあっても値下になり、季節的なこともあり悪い。今後は秋になればと考えるが、確たるものはない。
- ・ヒノキは販売の状況に合わせ入荷・消費する。材が痛むので在庫は減らす。
- ・スギ丸太の出材が増え始めた。ヒノキは製品の荷動きが相変わらず停滞しているため入荷抑制。消費は多少なりとも売り易いスギ丸太の製材を増やし、その分ヒノキは減。スギ購入量を大幅に増やしたため在庫も増。
- ・梅雨に入り、丸太入荷が滞ると見られる。市場在庫が減ってきている、例年に比べて少ない。
- ・6月は梅雨の影響や営林署システム販売分の下請けに入る業者もいるため入荷は減少する見通し。生産は落とさず稼働。材質の時期(虫害)が悪いため在庫は調整。
- ・梅雨の影響もあるが、素材価格がなかなかもち返さないために入荷は若干減少の可能性あり。消費は合板や輸出次第のところもあるが、大手製材メーカーの生産調整がカギを握るのでは。
- ・梅雨入りもあるが材は順調に入荷。生産は変わらず。
- ・出材順調。在庫多し。
- ・梅雨に入って入荷やや減少。

(原木価格)

- トドマツは、バイオマス関係もあり高値安定続く。
- スギ、ヒノキは買い気低い。
- ヒノキは例年の動きとなると予想。
- スギ丸太は出材が増えるにつれて下落、ヒノキは弱いままジリジリ値を下げている。
- スギの値下げは難しいが、ヒノキは値下げが通りやすい。
- 製品需要次第で、先が見えない状況。
- 梅雨の影響もあり、量が減少してくれば、おのずと価格に反映されるのでは。
- 製材品の販売不振で原木価格はやや下落している。

27年6月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 2

(3) 製材品荷動き動向 Weight. D. I.

品目		27/6月	7月	8月
生産動向	スギ	25.0	10.0	10.0
	ヒノキ	△ 18.8	△ 12.5	△ 18.8
	カラマツ	—	—	—
	トドマツ	0.0	0.0	50.0
出荷動向	スギ	0.0	10.0	10.0
	ヒノキ	△ 43.8	△ 31.3	△ 18.8
	カラマツ	—	—	—
	トドマツ	△ 50.0	50.0	50.0
在庫動向	スギ	35.0	25.0	0.0
	ヒノキ	6.3	12.5	12.5
	カラマツ	—	—	—
	トドマツ	0.0	0.0	0.0

・スギ製材品の生産は3ヵ月連続して増加、ヒノキは3ヵ月連続して減少、トドマツは6月、7月の横ばいが8月は増加。

・スギ製材品の出荷は6月の横ばいが、7月、8月は増加、ヒノキは3ヵ月連続して減少、トドマツは6月の減少が、7月、8月は増加。

・スギ製材品の在庫は6月、7月の増加が8月は横ばい、ヒノキは3ヵ月連続して増加、トドマツは3ヵ月連続して横ばい。

(4) 製材品出荷価格動向 Weight. D. I.

品目		27/6月	7月	8月
スギ	柱角 KD10.5×3	△ 37.5	△ 32.5	10.0
	柱角 KD12×3	△ 30.0	△ 40.0	△ 20.0
	通し柱 12×6	△ 21.4	△ 21.4	△ 7.1
	桁角	△ 12.5	△ 12.5	△ 6.3
	母屋角	△ 31.3	△ 31.3	△ 12.5
	タルキ	△ 12.5	△ 14.3	0.0
	間柱	△ 33.3	△ 33.3	△ 11.1
	ヌキ	△ 12.5	△ 18.8	△ 6.3
	平割	△ 18.8	△ 18.8	△ 6.3
	ラミナ	△ 25.0	0.0	0.0
ヒノキ	柱角 KD10.5×3	△ 50.0	△ 37.5	△ 15.6
	柱角 KD12×3	△ 43.8	△ 37.5	△ 15.6
	土台角 10.5×4	△ 50.0	△ 37.5	△ 25.0
	土台角 12×4	△ 39.3	△ 35.7	△ 25.0
	通し柱 12×6	△ 16.7	△ 16.7	0.0
	ラミナ	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0
	カラマツ土台角10.5×4	—	—	—
カラマツ 〃 梱包仕組み板	—	—	—	
カラマツ 〃 ラミナ	—	—	—	
トドマツサンギ	0.0	0.0	0.0	

・スギ製材品の価格は、総じて弱含み、8月には一部が保合。

・ヒノキ製材品の価格は総じて弱含み。

・トドマツサンギは保合で推移。

モニターからのコメント

(製材品荷動)

- ・トドマツは、前月と変わらず荷動き悪いが、先の増加が見込めるためフル生産。6月後半、7月に向けて受注は多くなる気配。在庫は横ばい、出荷まで余裕ある。
- ・スギ、ヒノキは、生産稼働日数変えず。年初より低水準であったアイテムの出荷量が幾分か回復、昨年比では減少。荷動き総じて悪く、過剰感のアイテムを減らしていく。
- ・ヒノキは出荷は少しは上向きになるかも、在庫は少し減らす方向でコントロール。
- ・スギ主体の製材に切り替え。ヒノキの注文は極端に減っている。在庫は製材量の関係でスギ若干増。
- ・コスト増につながる生産調整の選択はない。7月には明るい兆しが見えてくるかも。完成品在庫が積み増している。
- ・スギ柱角は先月少なかったため増加期待。
- ・入荷はメーカーの生産調整次第。例年通り動きが鈍くなる時期であるため出荷は少ないが、盛り返してくる時期は未だ見えてこず、不安定である。各メーカー在庫（半製品）は変わらず過多なのは。
- ・生産変わらず、販売不振。
- ・在庫は増加する一方。

(製材品出荷価格動向)

- ・トドマツサンギは横ばい、一部違う樹種で値下げあり、トド製品下がらないかとの問い合わせあり。値下げしても売れないはず、原木下がらないと難しい。
- ・スギ、ヒノキは、6月値決めあり、当月より価格下げ、その他商品は買い気低いも当用買い先への不要の下げは行わない。
- ・ヒノキの販売価格は変えない。
- ・スギは消費税増税前の価格より下がってしまった。スギケタ等は辛うじて価格維持。ヒノキは柱、土台などスギと間違えそうな水準まで下落、先行き不透明。
- ・スギ製品についてハウスメーカーの価格は大幅に下げられたが、一般商材は小幅な値下。ヒノキKD製品の50,000円/m³が当たり前になってきた。ヒノキ4寸土台(KD)売れない。
- ・ヒノキ販売不振でやや下落。

27年6月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 3

イ. 外材

(1) 製材用原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		27/6月	7月	8月
仕入動向	米マツ丸太	100.0	50.0	0.0
	NZラジアータ	△ 50.0	△ 50.0	0.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
消費動向	米マツ丸太	100.0	50.0	0.0
	NZラジアータ	△ 50.0	△ 50.0	0.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
在庫動向	米マツ丸太	0.0	0.0	0.0
	NZラジアータ	50.0	50.0	0.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—

・米マツ丸太の仕入は6月、7月の増加が8月は横ばい。NZラジアータ丸太は6月、7月の減少が8月は横ばい。

・米マツ丸太の消費は6月、7月の増加が8月は横ばい。NZラジアータ丸太は6月、7月の減少が8月は横ばい。

・米マツ丸太の在庫は3ヵ月連続して横ばい。NZラジアータ丸太は6月、7月の増加が8月は横ばい。

(2) 製材用原木等購入価格動向 Weight. D. I.

品目	27/6月	7月	8月
米マツ丸太	0.0	50.0	50.0
NZラジアータ丸太	0.0	△ 50.0	△ 50.0
北洋エゾマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ原板	—	—	—

・米マツ丸太の価格は6月の保合から、7月、8月は強保合。NZラジアータ丸太は6月の保合が、7月、8月は弱含み。

モニターからのコメント

(原木荷動)

・NZラジアータ丸太の入荷は、注文量少ないため輸入量削減。製品は減産中。在庫は増加中。

(原木価格動向)

・NZラジアータ丸太は7月分から小額下がる。

27年6月分

製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 4

(3) 製材品の荷動き動向 Weight. D. I.

品目	27/6月	7月	8月
生産動向			
米マツ製材品	100.0	50.0	0.0
NZラジアータ製材品	△ 50.0	△ 50.0	0.0
北洋エゾマツ製材品	—	—	—
北洋アカマツ製材品	—	—	—
出荷動向			
米マツ製材品	100.0	0.0	0.0
NZラジアータ製材品	△ 50.0	△ 50.0	50.0
北洋エゾマツ製材品	—	—	—
北洋アカマツ製材品	—	—	—
在庫動向			
米マツ製材品	50.0	0.0	50.0
NZラジアータ製材品	50.0	50.0	0.0
北洋エゾマツ製材品	—	—	—
北洋アカマツ製材品	—	—	—

・米マツ製材品の生産は6月、7月の増加が8月は横ばい、NZラジアータは6月、7月の減少が8月は横ばい。

・米マツ製材品の出荷は6月の増加が、7月、8月は横ばい、NZラジアータは6月、7月の減少が8月は増加。

・米マツ製材品の在庫は6月の増加、7月の横ばいを経て8月は増加、NZラジアータは6月、7月の増加が8月は横ばい。

(4) 製材品の出荷価格動向 Weight. D. I.

品目	27/6月	7月	8月
米マツ平角	0.0	0.0	0.0
米マツ正角	0.0	0.0	0.0
米マツ小割	△ 50.0	0.0	0.0
北洋エゾマツタルキ	—	—	—
北洋アカマツタルキ	—	—	—
NZ梱包材(割板)	0.0	△ 50.0	△ 50.0
NZ梱包材(割角)	0.0	△ 50.0	△ 50.0
NZ土木用材	0.0	△ 50.0	△ 50.0
その他	—	—	—

・米マツ平角及び正角の出荷価格は横ばいで推移、小割は6月の弱保合が7月、8月は横ばい。

・NZラジアータ製材品の価格は6月の横ばいが7月、8月は弱含み。

モニターからのコメント

(製材品荷動き)

・NZラジアータ製材品は、夏には生産、出荷とも増加する。在庫は受注が増えれば減少。

(製材品出荷価格動向)

・NZラジアータ製材品は、相場弱い状況である。